

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2371300191
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし
訪問調査日	平成20年1月31日
評価確定日	平成20年3月19日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月19日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371300191
法人名	有限会社 ライフケアみおつくし
事業所名	グループホーム みおつくし
所在地	名古屋市守山区竜泉寺二丁目1139番地 (電話) 052-794-2366

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年1月31日	評価確定日	平成20年3月19日

【情報提供票より】(平成19年12月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年3月31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり	1,030 円		

### (4) 利用者の概要(平成19年12月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	2名	要支援2	0名			
年齢	平均	88 歳	最低	72 歳	最高	100 歳
協力医療機関名	旭労災病院					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは山林に囲まれた静かな自然環境の中にあり、建物は民家改造型で名古屋市で最初に設立されたグループホームである。入居者の多くが高齢化重度化している状況の中、ホームの外の広場で日光浴をしたり、週に2~3回車に乗って食材などの買物に出かけたり、近くの小幡緑地や東谷山への外出や外食を楽しむ生活が支援されている。畑で採れた野菜や果物などの収穫祭では、地域との交流もある。災害時に備え、敷地の一角には貯水タンクがあり、プレハブには食料が備蓄されている。2週間毎の医師の往診や週1回の訪問看護など、医療機関と連携がとれている。職員は「自分の家族が認知症になったら、みおつくしに入りたい、入れたくなるグループホームを！」を目標に入居者に添った介護に取り組んでいる。今後は更に地域とホームが双方向的な関係に発展するよう取り組みに期待したい。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 公民館の掃除に積極的に参加し、地域との交流の中で理解してもらおうと努力している。緊急時の対応マニュアルや連絡網、個人対応カードを作成し、講習会への参加など、医療に繋がれるよう改善した。また、感染症については職員も予防接種を実行し、手洗い後ペーパータオルを使用するよう改善した。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は全部記述形式で大変な面もあったが、互いに話し合ったりしながら全職員が取り組み、管理者がとりまとめた。自己評価や外部評価を通しサービスの質向上に繋がりたいと考えている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 会議は2カ月毎に開催し、ホームの取り組み状況や目的などを報告し意見交換している。入居者家族代表、町内会長、民生委員等地域の方の参加も得て討議が進められている。民生委員はホーム見学の感想を広報に寄せている。家族の意見も直接聞くことができ、サービス向上に繋がようとしている。守山区福祉祭りにも毎年参加している。地域包括支援センターの依頼により、今年は「認知症について」の講師として講演した。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 要望、苦情の申し立ての連絡先や担当者を明示し、玄関には意見箱を置いている。家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など、何でも話せる関係を築くよう努めている。今後は来訪の少ない家族にも積極的な働きかけを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して回覧板を回してもらったり、公民館の清掃活動には積極的に参加し組長ともよく話す関係がある。(昨年度は管理者が組長を引き受けて地域との結びつきも強まった)。また、名古屋市消防署の救命救急講習に2名が参加した。守山区福祉祭りにも毎年参加し、11月の収穫祭や1月のどんど焼きでは地域との交流も生まれている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「やすらぎ」を基本理念とし、「私が 自分の家族が認知症 になったら みおつくしに入りたい 入れなくなるホーム を！」を目標に職員は介護に取り組んでおり、運営理念を 居間のテレビの上に明示している。地域密着型としての理 念は特に掲げていない。		町内公民館の清掃に積極的に参加したり、地 域包括支援センターの依頼により、「認知症 について」の講師として講演したり、ホーム の収穫祭には地域と交流も生まれており地域 密着型に結びつくと考えられる。これらをふ まえ理念に盛り込まれることが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りや月1回、全員参加のカンファレンスでは 理念を確認し共有している。「自分の家族が認知症になっ たらみおつくしに入りたい、入れなくなるホームを！」を 目標に職員は介護に取り組んでいる。職員の意見や討議を もとに考えて行なう介護を大切に、取り組みに関しては管 理者も応援する気持ちでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	町内会に加入して回覧板を回してもらったり、公民館の清 掃活動には積極的に参加し組長ともよく話す関係がある。 (昨年度は管理者が組長を引き受けて地域との結びつきも 強まった)。また、名古屋市消防署の救命救急講習に2名 が参加した。守山区福祉祭りにも毎年参加している。11月 に収穫祭や1月のどんど焼きでは地域との交流も生まれて いる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	公民館の掃除に積極的に参加し、地域との交流の中で理解 してもらおうと努力している。緊急時の対応マニュアルや 連絡網、個人対応カードを作成し、講習会への参加など、 医療に繋がれるよう改善した。また、感染症については 職員も予防接種を実行し、手洗い後ペーパータオルを使用 するよう改善した。今回の自己評価は全部記述形式で大変 な面もあったが、互いに話し合ったりしながら全職員が取 り組み、管理者がとりまとめた。		評価の意義の理解と改善への認識において は、まだまだ現場では項目への疑問等温度差 があるため、評価のねらいや活用方法を理解 できるよう討議をされることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月毎に開催され、ホームの取り組み状況や目的等を報告し意見を交換している。参加者は入居者家族代表、町内会長、民生委員等地域の参加も得て討議が進められている。民生委員はホーム見学の感想を広報に寄せている。また、家族の意見も直接聞くことができ、サービス向上に繋げようとしている。</p>		<p>運営推進会議の場で前回の外部評価結果の報告はしていないので今後は意見を聞き、モニター役にもなってもらったり、地域密着型の役割を果たしていける事を期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>介護認定調査の更新代行時や地域包括支援センターからの受け入れ相談を通じて区とは情報交換をしている。また、地域包括支援センターの依頼により「認知症について」の講師として講演をした。さらに積極的に連携していきたいと考えている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>理念については入居時に説明している。季節毎に「ふれあい通信」で入居者の近況報告や家族へのお願い、行事予定を家族に知らせ、写真も送付している。また、家族の訪問時には報告や説明をしている。「1カ月に1度は訪問してほしい」「ホームの現実をもっと見て欲しい」というホームの思いは強い。日頃のお茶会や行事にも家族に参加してほしいと必ず呼びかけている。</p>		<p>季節毎に通信を家族に送付し、入居者の状況を伝えている。家族の方にさらにホームに関心や興味を持っていただきたいと考えていることから、個々の家族の状態に応じたアプローチや報告の方法など取り組みに期待したい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営に関してはホームに任せているからと遠慮される家族が多く、面会や意見などは少ない状況である。運営推進委員会に家族代表として参加してもらい、意見を反映させる努力をしている。家族の来訪時には近況報告だけでなく、運営に関する意見や要望など聞くよう努めている。</p>		<p>家族の状況も様々であり、来訪の少ない家族に対して、ホームに気軽に訪問してもらったり、家族の思いや要望を安心して表してもらえらる機会をホームから積極的につくっていくことを期待したい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新人職員の場合入居者に紹介している。法人内の異動は殆どない。1人だけに親密にするのではなく職員皆が平等に接し、職員誰もが入居者一人ひとりを把握していることが大切と考えており、それが異動の際にもダメージが少ないと考えている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員を対象として、名古屋市の基礎研修会への参加や資格取得への援助、参加への勤務変更、セミナーの紹介を支援している。最近4名(パート職員も含む)が介護福祉士の試験に挑戦した。その際、同法人の協力応援があった。法人内の他グループホームでの「拘束、虐待」についての研修にも参加し、意見交換もしている。研修の内容はカンファレンスの中で報告して共有している。		研修計画を作り研修の機会を法人内外に積極的に確保し、段階的研修の実施も期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会の会議には年1~2回参加している。法人内の他グループホームでの「拘束、虐待」についての研修に参加したり、意見交換や交流はよくあり、サービスの質の向上に努めている。		法人内の交流に留まらず、地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会等ネットワークづくりに期待したい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前、本人や家族から話を聞き取り、来訪してもらって雰囲気を覚えてもらい、納得して入居してもらうよう努力している。本人の得意な事などを聞き出し、自信を持って他の入居者やホームでの生活に馴染みやすいように工夫し、不都合や不安のない雰囲気づくりに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の人生経験や生活歴、好きな事、嫌いな事、得意な事を話してもらい、人生の年長者として敬意、その生き様やその人らしさを尊重している。入居者に寄り添って過ごしながら学ぶことも多い。得意なことを教えてもらった時、和歌や短歌が得意な人からは詩的表現を教わったり共に過ごし支えあう関係がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段の日常生活の中で常に本人の思いや意向を把握し、理解するよう努め、その人らしい生活が実現できるようにしている。毎日の申し送りの他、1カ月に1回のカンファレンスでは入居者一人ひとりの状況を全職員が色々な方面から話し合い本人の背景や思いを把握し、共有している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの毎日の生活から様子を把握し、毎朝申し送りを行っている。また1カ月に1回のカンファレンスでは入居者一人ひとりの状況を全スタッフがいろいろな方面から話し合い、把握し、共有して介護計画に反映させている。入居後、状況を観察しながら介護計画も馴染みやすいように工夫、変更していく。</p>		<p>介護計画は来訪時に家族に対して説明し署名、捺印をもらっているが、来訪が無い場合には説明や介護計画書の送付はしていない。家族の意向の確認や計画書の確認など全家族にしてもらえるよう検討されたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者、計画作成担当者、全職員と一緒に毎月のカンファレンスで一人ひとりの情報を共有し合い現在の計画と合致しているか検討している。実情と見合わない計画になっている場合はその都度に変更している。変化がなくても半年毎に介護計画の見直しに取り組んでいる。</p>		<p>介護計画を見直した場合においても全家族に、意向の確認や計画書の確認をしてもらえるよう検討されたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>管理者が「認知症専門研修」を受講しており短期の受け入れは可能だが現実的には居室の問題、経営的な問題が多々あり難しい状況である。入居者によっては、来訪者が来ると落ち着きがなくなるなど対応が難しくなる場合もあるが、医療連携体制やショートステイ、デイサービスなどの多機能性を活かした柔軟な支援ができるよう思案している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携体制をとっており、2週間に1回主治医の往診による診察を受けている。毎週看護師の訪問もあり健康状態は維持されている。かかりつけ医への受診は家族が対応することもあるが、ホームの契約医による受診希望が多数である。歯科治療も依頼すれば訪問してもらい受診できる関係はできている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化に対する「対応指針」を定め家族と話し合い、入居時に確認をとっている。入居者の多くが高齢化重度化している状況であるため、入居後、医療が必要になった場合や食事の摂取ができなくなった場合を限界として、家族やかかりつけ医と連携をとりながら職員全員で介護努力している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員の守秘義務の厳守は徹底されている。プライバシーの確保は入居者のそれぞれの自立度、個性等個別に対応している。個人記録や緊急時の持ち出しカードについても職員には分かりやすい場所に設置してあるが、来訪者には一切目に触れないように慎重な扱いをしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な日課はあるが入居者一人ひとりのペースにあわせ、せかさず職員自身もゆったり見守りながら生活している。訪問時には、一人でゆっくり朝食を摂っている入居者の姿が見られた。行事の時にはアルコールも飲んでいただき楽しんでいる。喫煙は可能だが健康のため本数を減らすなど調整しながら支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は週のはじめに職員、入居者と相談して決めている。高齢化重度化している人が多くなって食器の準備や後片付け等も困難な面も出てきているため、調理は職員が行っているが、手伝いのできる入居者には「ごぼうのささがき」「味付け」「太巻き作り」など本人の得意なことに参加してもらっている。ホーム内で収穫した野菜、果物など季節の物も取り入れ楽しんでいる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は基本的には週2～3回となっているが希望や状況に応じて入浴できるよう支援している。入浴前にはバイタルを測り体調の変化に気を配っている。体調の悪いときは足浴、清拭と変更し清潔を保持している。入浴拒否をする入居者には言葉かけ等に工夫をして支援している。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>ホーム内の壁面に昔懐かしい歌の歌詞が貼られており、不穏になった時などに歌を歌い気晴らし、気分転換を図っている。こまめに毎日日記をつける習慣の入居者にホーム内の日めくりをめぐってもらったり、和歌や短歌が得意な人からは詩的表現を教わる等、活力を引き出すようにしている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホームは山林に囲まれた静かな自然環境の中にあり天気の良い日はホームの周辺で日光浴をしている。食材の買い物にも出かけたり近くの小幡緑地へ弁当持参で出かけ気分転換をしている。家族にも声をかけ温泉旅行へも行けるよう検討している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は構造上目の届かない場所であり鍵をかけているが、その他は勝手口など、日中開放している。離設行為の傾向のある方にも必ず理由があると、職員全員で生活歴、職業歴、故郷、昔住んでいた所など多方面から捉え、背景や思いを共有し見守りをしている。地域の行事などにも積極的に参加して隣組の人にも協力を依頼し、隣組の人にも認識してくれている。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火防災計画書を作成し消防署、町内会へ提出している。高齢化重度化が進み入居者を交えての避難訓練は困難であるが、災害を想定しカンファレンスの都度話し合いを繰り返している。居室の家具の転倒、棚の上の物などには配慮している。非常用の飲料、食料も3～4日分は準備されている。</p>		<p>避難訓練は入居者も共に参加することにより、入居者の反応や動きなど課題、反省点が明確になり対応策を検討することができる。そのためにも入居者も交えて訓練を実施することが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事量、水分摂取量は把握している。1日の水分摂取量は1を目安にしている。定期的に行っている主治医による血液検査の結果で栄養のバランスなどを献立に反映させている。体調により軟食、ミキサー食と対応しているが、なるべく自然のものを自然のままに柔らかく食べられるように工夫している。</p>		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホームは山林に囲まれ高度の高い所に位置しており冬は気温が下がり寒さ対策が大変である。外側を手作りのスチロールパネルで覆って随分和らいでいる。居間には入居者の習字の作品や季節に合わせたちぎり絵なども貼ってあり居心地が良い場所となっている。周辺は木々が立ち並び鳥のさえずりが聞こえ自然の中でのびのび過ごすことができる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には使い慣れた家具が持ち込まれており家族の写真、手作りの作品等がその人らしく飾られている。ベッドには「湯たんぽ」を利用し、まるで昔の自宅で生活を送っているかのような安全で暖かい雰囲気がある。また寒さ対策として部屋の窓の外側にスチロールパネルを貼る等工夫がされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。